

## 高齢者の生活機能低下に対する作業療法の効果に関する研究

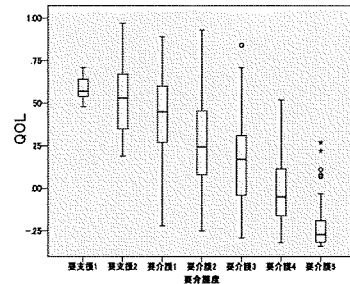
	研究目的	研究方法
①	要介護状態にある高齢者の生活機能の実態を調査する	全国の18の病院・施設の672名を対象にICF <sup>注1)</sup> を用いて調査
②	要介護高齢者に対する作業療法の効果を検証する	全国の11の病院・施設の184名を対象にランダム化比較試験によって理学療法的介入との効果の差を検証した

注1:2001年にWHOが採択した国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health)のこと

### ①の成果

\*Item Indexは数値が高いほど困難度が高いことを示す

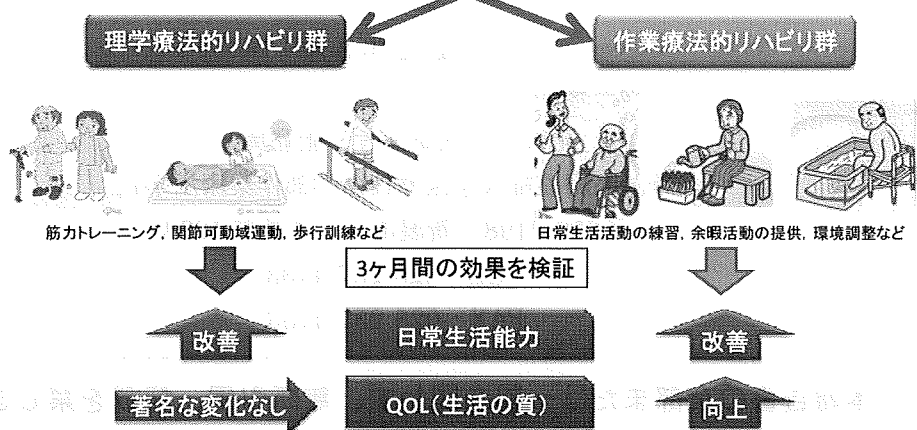
「活動と参加」の各章	Item Index*	
	実行状況	能力
第1章「学習と知識の応用」	51.2	40.1
第2章「一般的な課題と要求」	45.6	41.9
第3章「コミュニケーション」	41.1	35.8
第4章「運動・移動」	59.8	53.4
第5章「セルフケア」	37.7	34.4
第6章「家庭生活」	89.6	77.7
第7章「対人関係」	38.0	35.2
第8章「主要な生活領域」	86.0	76.2
第9章「コミュニティライフ・社会生活・市民生活」	56.2	47.8



要介護状態にある高齢者は生活場面で様々な困難を来たしており、介護状態が重度になればなるほどQOLも低くなっている

### ②の成果

対象者をランダムに2群に分け、一方に作業療法的リハビリをもう一方に理学療法的リハビリを実施してそれぞれの効果を判定した



高齢者に対するリハビリテーションは機能回復訓練ばかりではなく、QOLの向上を目指した日常生活活動の練習や余暇活動の提供、環境調整といった作業療法的なリハビリも重要である

平成 19～21 年度 厚生労働科学研究補助金（長寿科学総合事業）  
高齢者の生活機能低下に対する作業療法の効果に関する研究  
総合研究報告書

平成 22 年 3 月

発行：主任研究者 能登真一  
新潟医療福祉大学医療技術学部作業療法学科  
〒950-3198 新潟市北区島見町 1398  
TEL：025-257-4733  
FAX：025-257-4733

本報告書の全部または一部を問わず、無断引用、転載を禁じます。

